

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1171600479
法人名	株式会社 吉田フローア
事業所名	グループホーム楽しいわが家
所在地	〒362-0072 埼玉県上尾市中妻2-13-8 (電話) 048-778-2727

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(平成21年1月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 1,300円		

(4) 利用者の概要(1月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.6 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上尾中央総合病院、中妻クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、北上尾駅から歩いて10分の住宅地に建っている。居室、廊下の漆喰の壁の部分は落ち着いた雰囲気があり、湿気の調節にもなっている。共用部分の畳の部屋では利用者が洗濯物をたたんだり、掘りゴタツも使用できるようになっており、居心地の良い空間を作り上げている。また、食事中も利用者同士で会話を交わし、和やかな時間が流れていて、お互いに労わり合いながら生活している。職員、管理者は利用者によりと声かけをし、日々の生活の中で利用者の思いや状態を把握して、最良のケアが出来るように情報を共有することに努めて支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で課題とされた項目について改善に取り組んでおり、運営推進会議が開催されるようになった。職員を育てる取り組みについては、計画的に研修に参加できる体制作りが今後も必要であるが、研修の意義は理解できている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員全員で自己評価に取り組んでいる。職員会議やリーダー会議において管理者、ホーム長、ユニットリーダー、全職員で評価を確認している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、利用者の家族、民生委員、医療関係者、行政等のメンバーにより開催されている。会議では、外部評価の報告やホームからの報告事項を伝えるとともに、意見交換を行い、具体的な実践につなげるように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情、相談窓口を設置し、苦情等への対応を心掛けている。意見については、アンケート用紙を作成し家族に送付したり、ホームに来訪した際に職員が汲み取るように努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加したり、散歩の途中で近くの児童館に立ち寄りなど、地域の中で交流する機会を持っている。また、ホーム内でイベントを行う際はチラシを配るなどお知らせをし、近隣住民との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に作り上げた基本理念のもと、近所への散歩や買い物など地域とのつながりを通し、家庭的な環境の中で利用者が暮らせるように支援している。なお、壁には理念が書かれたものを明記している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、支援の中で心掛けている具体的な課題に沿って協議し、利用者が生きいきと生活できるように職員は健康に留意しながら理念を共有し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しているほか、散歩時に立ち寄る近くの児童館との交流もある。また、ホームの大きなイベントには地域の方を交え、ボランティアの参加も得て交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題について改善に取り組んでいる。また、職員会議やリーダー会議において管理者、ホーム長、ユニットリーダー、職員全員で自己評価を確認している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者の家族、民生委員、医療関係者、行政等のメンバーにより開催されている。会議では、外部評価の報告をはじめホームからの報告事項を伝えるとともに、意見交換を行い、話し合うことで具体的に実践できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3か月に1回作成されるホーム便りを市役所の窓口に持って行き、意見を聞いたり情報を得ることで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者のホームでの様子等を金銭管理とあわせて家族に報告している。また、3か月に1回ホーム便りを作成し、ホームの行事等を伝えている。なお、異動等が生じた際も家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置したり、アンケート用紙を家族に送り意見を出してもらうようにしている。また、家族がホームを訪れた時には、職員はコミュニケーションの中で意見等を汲み取り、運営に反映させる努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が職員に馴染むことが出来るように配置を考慮して対応し、不安が生じないようにダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットリーダーは実習者研修に参加したり、他の職員は感染症の研修に参加しているが、計画的に研修する体制が出来ていない。研修の重要性は共有している。		研修の大切さは認識しているが、計画的な研修の体制を整えて、職員全員が取り組みやすいように前向きに実行していくことが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流やグループホーム協議会に参加している。職員全員に交流する機会を知らせ、勤務扱いで参加できるようにして情報交換や勉強をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>空き部屋を利用し体験入居をしてもらっている。また、馴染みの職員が担当し、本人が納得してサービスを利用できるように支援している。なお、家族にも相談や連絡をし工夫しながら取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から話を聞くなかでアドバイスをしてもらったり学ぶことも多い。一緒に日々生活する中で、一方向の関係になることなく、互いに支えあうことで信頼関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員間で連携を図りながら情報交換するとともに、利用者のニーズを観察して思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン会議で意見交換をして情報を共有し、利用者がホームで安心して暮らしていくために話し合い、家族に意見や意向を確認した上で介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスを月1回行うとともに、3か月に1回見直しをしている。また、会議に参加できない職員についても、事前に意見を出す仕組みにより、介護計画に反映できるようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いや利用者、家族の要望に応じた外出等を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるように協力医療機関に受診できるようにしている。また、本人、家族が希望する場合は、入居前のかかりつけ医に受診できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と話し合っ希望を確認している。ユニット長の交替等があったことから、重度化や終末期に向けた会議が停止している状態である。		職員が共通の認識を持つことで家族の安心につながるため、話し合いを繰り返し、介護面でのルールを作成して職員全員で方針を共有することを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重した態度で接し、言葉掛けも丁寧に行っている。また、個人情報に関しては事務所で取り扱うように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にするとともに、興味のあることを見つけ出すように支援し、その人らしい生活が過ごせるように工夫している。購入品がある場合は外出支援もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や嗜好に沿って食事内容を考え、季節感も採り入れて支援している。片付けは利用者と共に、時にはファミリーレストランと一緒に出掛けることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で決めず、1日おきに数人ずつ希望にそって楽しく入浴できるように支援している。入浴を拒否される方にも声かけをすることで、タイミングよく入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大正琴の発表や農業に関した作業をするなど、過去の生活歴を活かした生活を送ることが出来るように支援している。また、生活する中で洗濯物をたたむなど、自分の役割を持つことで張り合いのある日常を送っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、必要に応じて利用者の希望にそった外出の支援をしている。時には車での外出でドライブを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関前が道路に面しているため、安全に配慮して鍵をかけているが、部屋、その他の出入口には鍵をかけることなく全体に閉塞感はない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により避難訓練を実施している。ただし、夜間においての想定はしていないため、今後は利用者が避難できるように対応していく意向である。		地域の人々からも協力が得られるように避難訓練時には体制を整えることが望まれる。また、夜間を想定した訓練の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回栄養士に点検等してもらい、栄養バランスが考えられた食事を提供している。風呂上りなどでは特に水分補給に注意を払いながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が過ごしたい場所にいられるように、廊下にソファが置かれている。また、廊下や部屋の壁は漆喰で出来ており、自然に湿度が調節される工夫がなされている。畳部屋は堀ゴタツにもなるように作られ、ゆったりとした空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活を続けることが出来るように支援している。居室には好みのコタツが置かれていたり、写真が飾られるなど、家族と相談しながら作り上げている。		